

受日建産第 174 号

平成 20 年 10 月 17 日

国土交通省道路局長 様

日吉津村長 石

操



今後の道路行政についての意見・提案の提出について（回答）

平成 20 年 9 月 19 日、国道企第 37 号で依頼のありましたこのことについて別紙のとおり回答いたします。

担 当：日吉津村役場 建設産業課

課長補佐 松尾 達志

電 話 0859-27-5953

F a x 0859-27-0903

E-mail matsuo@hiezu.jp

①道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

- ・重点化を進める上で特に優先度の高い政策が必要

高速交通体系の整備（高速道路、地域高規格道路の整備）

圏内（西部圏）の幹線、準幹線道路の整備

- ※ 交通渋滞を無くし、地球温暖化の原因となる二酸化炭素の排出を減少する。

交通網における地域間格差を少なくする。

中心地方、中心地だけの整備ではなく均等な発展・整備に努める。

交通安全、交通弱者救済のための道路整備が必要。

- ※ 交通安全等のためにも、バリアフリー、交通弱者、高齢化社会、通学路、自転車道、地球温暖化対策等を踏まえた車道、歩道を計画・整備する。

- ・効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

道路構造の決定にあたっては車道、歩道幅員、歩道植栽、右折レーン・交差点改良等を下記の事項等に考慮し決定する。

新設・拡幅・改修道路の設計にあたっては、交通安全等のためにも、バリアフリー、交通弱者、高齢化社会、通学路、自転車道、地球温暖化対策等を踏まえた車道、歩道に整備する。

- ※ 電線の地中化、ライフラインの整備の工事費にも影響する。

右折レーン・交差点改良は交通渋滞の緩和になるので積極的に整備する。

- ・その他、道路政策や道路の整備・管理全般に関する事項

道路整備の重要性を理解してもらう。

街・地域づくりへの道路の役割の大切さを理解してもらう。

都市局所管の街づくり事業等（再開発、区画整理等）に道路整備事業の予算をもっと配分すればかなり大きな面的整備（道路整備）効果がある。

- ※ 道路ではどうしても線的整備になり、国土・地域発展のためには面的整備（地域一体としての道路整備）が重要であり、縦割り部分を少なくしてほしい。

維持管理にボランティアでの作業が今後重要になるが、継続的に安全に事業を進めるためにも保険システムを確立してほしい。安心して、継続的に作業ができるように。

- ※ 何かあってはいけませんが、あった場合のシステムを確立。行政、事業主体（自治会、NPO等）、世話人、被害者、加害者となった場合にそれぞれの立場として安心してボランティア等が行える、推進していけるシステムの構築。

②—1 地域の現状と抱える課題

鳥取県日吉津村

○現状 ・幹線道路の機能不足 ・国道に依存した道路構造で、市街地に骨格道路網が不足 ※幹線道路の計画標準 3.5Km/K m²に対し、市街地内都市計画道路計画量は0.21 km/km²と標準の6%の水準 ・交通量が国道へ集中化する道路構造 主要道路網は、周辺市町と連絡する国道9号及び同431号を中心とし、村域の各地を連絡する県道や主要村道で構成されています。しかしながら、本村の地形的条件や米子境港都市圏の道路構成等から国道に交通が集中し、慢性的な交通容量の不足を招いており、円滑な道路ネットワークの育成による機能分担、交通容量の確保が必要とされています。 主要な道路網となる都市計画道路は、平成17年3月末で都市計画道路延長1.77km（市街地内は0.17km）で、概ね整備を終えています	○課題 地域連絡機能の強化 ・円滑な市街地内骨格道路の確保 ・米子境港都市圏における幹線道路網の整備（本村地域における交通量の軽減） 市街化区域内の骨格道路となる都市計画道路の位置づけがないことから、都市計画道路（幹線街路）の整備水準は、一般的な市街地における平均的な整備水準である3.5km/km²と比較すると、計画量及び整備量とも6%程度と非常に低く、都市活動の活性化及び都市生活の利便性・快適性の向上に資する骨格道路網の確保が必要とされています。
・公共交通の利用不便地区の分布及び魅力ある交通結節点の不足 ・JR山陰本線伯耆大山駅が近接して立地しているものの、本村からのアクセス性が困難。 バス路線は、国道及び主要村道を中心として村域を概ねカバーしているものの、一部地域においてバス利用の不便地区がみられます。	・交通結節点の機能強化や利用不便地区の解消 ・駅へのアクセス性の向上及び周辺のバリアフリー化等による魅力ある機能強化を推進 ・公共交通の利便性の向上 超高齢社会を迎えている本村にとって、公共交通機関は安全・安心な利用が不可欠であり、施設や地域のバリアフリー化、福祉に対応した路線の充実等が

	求められています
・災害時に対応できない狭隘な生活道路 ・幅員 4 m 未満の狭隘道路を有する市街地・集落地の分布 市街地及びその周辺地区における狭隘道路（幅員 4m未満）は、全道路における面積比では 1 割程度（地形図計測値）を占めているに過ぎませんが、延長比では 3 割程度となり、脆弱な市街地基盤となっています。このため、市街地における危険箇所としては、消防活動が困難な地区（幅員 6 m以上の道路から直線距離で 140mの範囲に含まれない区域）や、先の市街地対策区分において改善地区（宅地化率 50%以上、人口密度 40 人／ha 以上、道路整備状況不良）と判断された地区が挙げられます。 これらの地区は、市街地周辺の集落地にみられ、災害時における避難地・避難路の確保が困難であることや、地震時における大規模火災の発生・倒壊による緊急車両への通行阻害など、都市災害の危険性が内在しています。	・地区の実情に応じた基盤整備 ・コミュニティ計画等の地域合意型まちづくりにより、安全・安心な主要生活道路や広場の確保 住宅地などの市街地に隣接して大規模工業施設が立地しており、災害時における市街地の延焼の遅延や防止等に資する緑地の確保が望まれます。 避難地・避難路についてみると、地域防災計画において、避難場所として小学校や公民館及びジャスコ日吉津店などを指定していますが、避難路は指定していません。 また、国道・県道に依存した道路構造となっていることから、市街地における避難路や緊急輸送路となる幹線道路が不足しており、災害時における避難や応急対策、復旧対策等の困難が予測されます。

②—2 地域の目指すべき将来像

鳥取県日吉津村

基本目標である『一人ひとりが輝き 夢はぐくむ村づくり』を実現していくため、都市拠点・産業拠点等の拠点づくり、都市軸等の形成や交通環境づくり、良好な市街地環境の育成、さらには水と緑の空間づくりを進めていきます。

①地区拠点・産業拠点の形成

人々が集い賑わう中心が存在し、そこで豊かな都市文化を育む場が必要とされています。このため、行政施設や教育・文化施設の集積する地区を日吉津の地区拠点として、さらに機能の充実を図ります。特に、多機能施設、交流スペース、駐車場等を整備するなど、にぎわい交流拠点として整備を進めます。また、高齢社会への対応をはかるため、周辺地区と一体的に、安全に歩ける空間の確保、駐車場やポケットパークの整備など快適空間づくりを推進します。

日吉津地区・皆生海岸は自然景観に恵まれており、この優れた海岸線をうまく活かし、交流による新しい活力を産む可能性を有しています。このため、コースタル・コミュニティ・ゾーン整備計画に基づき、「ファンタジーコーストひえづ」として海洋性レクリエーション拠点を育成するなど、人々にうるおい・やすらぎ・感動を与える日吉津の魅力づくりを進めます。

②都市軸（生活軸）の形成

国道 431 号を中心として新たな都市軸が形成されていることから、米子境港都市圏における新都市軸として位置づけ、これまでの都市的施設の集積を基調として、計画的に都市機能の充実を図ります。

東西方向の交通軸として、国道 431 号を補完する道路の確保が必要とされていることから、市街地中心部と隣接市町との交通利便性を高める東西方向の骨格道路を位置づけ、生活軸としてうるおいと快適な市街地空間を育成していきます。

③良好な市街地・集落地環境の育成

住機能については、総人口の増加や核家族化の進行等により世帯数の増加が見込まれており、これらに対応した住宅地の確保を図る必要があります。そのため、今吉田園土地地区画整理事業地区を中心に、ゆとりある住宅地利用を促進します。

市街地や集落地については、狹隘道路の解消などにより安心して安全な生活空間の創出を目指し、地域の合意形成型のまちづくりを展開していきます。

昔ながらの農家住宅と都市型住宅とが混在し、農地等の緑が残る地区は、現在の田園景観との調和を図りながら、生活道路や身近な公園等の生活関連施設の整

備を推進します。

市街化調整区域（白地地域）に広がる低密度市街地や集落地は、市街化の抑制を原則とし、営農環境を悪化させない範囲で、地域の合意形成を図りながら、ある程度の宅地化を許容するゆとり居住区を設定し、生活関連施設の整備を促すなど、自然に恵まれたゆとりと潤いのある地域の育成を図ります。特に、本格的な少子・高齢社会が到来するなかで、地域のコミュニティの維持・活性化が必要とされる既存集落地においては、地域環境との調和のもと、地区計画制度を有効に活用し、適切な宅地化や地区施設整備を誘導し、ゆとりある住宅地として良好な居住環境の維持や持続可能な集落づくりを図ります。

④水と緑のネットワーク（緑の核、環境軸）の形成人々の生活を支え、交流を育むよう、本村の恵まれた自然環境を活かして、豊かで魅力ある水と緑の空間を形成していきます。

地区公園として整備されている海浜運動公園の他、都市構造上重要な都市景観を構成し、レクリエーション利用が可能な地区である日野川緑地や水辺地等を緑の核として位置づけ、人と緑とのふれあいの場として個性的に整備します。

市街地を取り囲む田園緑地などの都市美を支える独特の都市構造を保全し、自然と人との共生する都市づくりを進めるため、骨格となる日野川や海岸線等を環境軸として設定し、環境軸と緑の核並びに緑量感のある骨格道路による「水とみどりのネットワーク」の形成を行い、うるおいのある緑豊かな都市空間の育成へと展開していきます。さらに、公共空間に限らず、民有地の緑化など、地域住民の参加と協力を得ながらネットワークを広げ、歩いて暮らせるまちづくりを実現していきます。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ③

③ 道路施策の重点項目(代表事例、期待する効果や評価等)

鳥取県日吉津村

○重点事項	○代表事例	○期待する効果や評価等	○その他
・地域活力の向上	高規格道路網整備の早期実現	地域経済の活性化	
	主要幹線道路の整備	沿道の土地利用の活性化	
・総合的な交通安全 対策及び危機管理 の強化	自転車歩行者道の整備 狭隘道路の整備	バリアフリー、交通弱者、高齢化社会、通学路、自転車道、地球温暖化対策等を踏まえた車道、歩道の確保。 災害時における避難路の確保。 地震時における大規模火災の発生・倒壊による緊急車両への通行阻害防止。	